

At a Glance

2016年度業績(連結)

売上高
1兆5,043億円

自己資本比率
25.8%

経常利益
254億円

ギアリングレシオ
1.96倍

総資産
2兆2,175億円

ネットギアリングレシオ
1.64倍

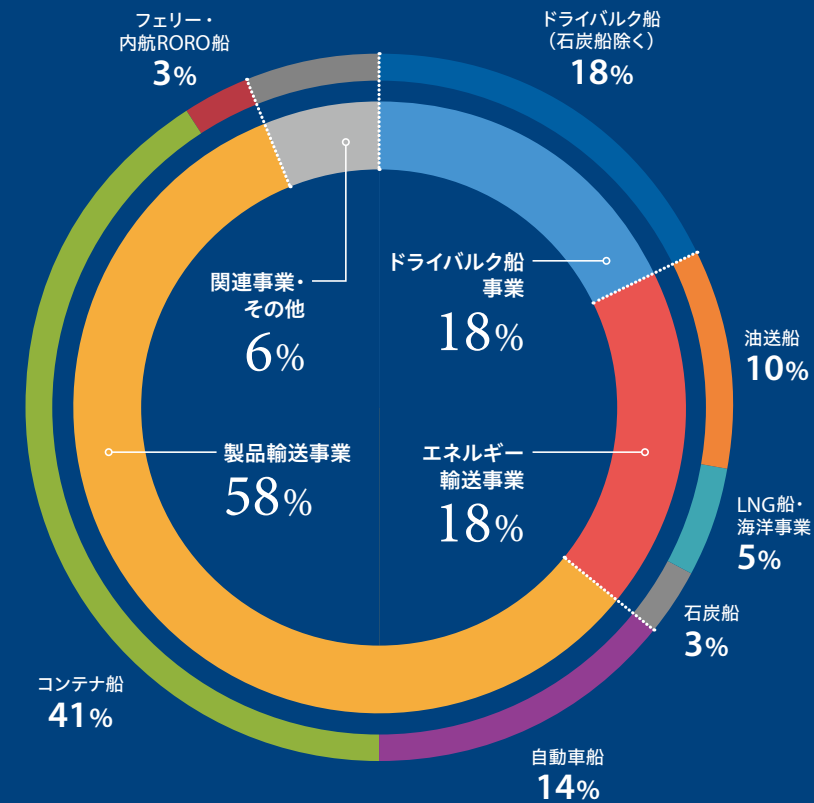
純資産
6,836億円

グループ運航船舶規模
847隻

セグメント別売上高/経常損益

内部取引を考慮・変更せずに2017年度から適用する新セグメントに単純に組み替えた概算参考数値

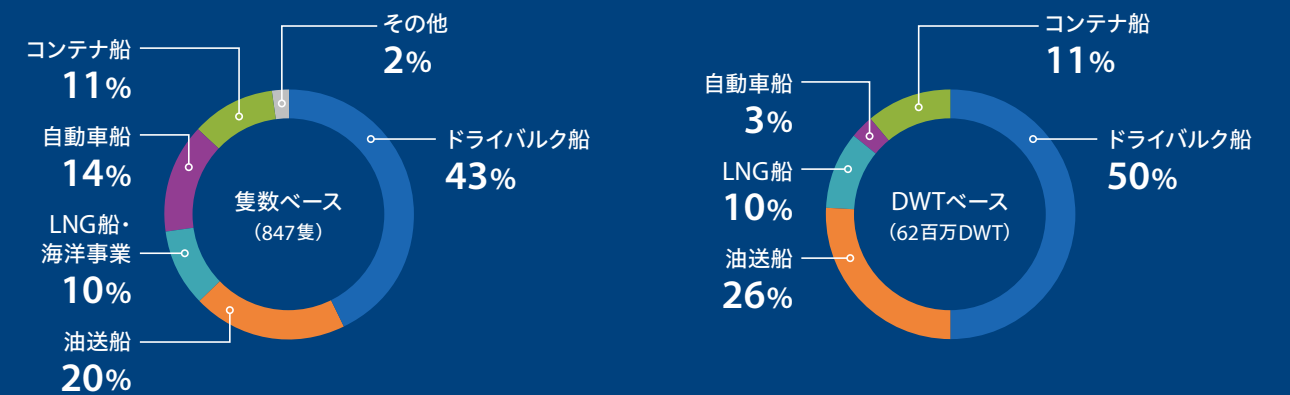
セグメント別売上高



セグメント別経常損益(億円)

	2016年度実績
ドライバルク船事業	119
エネルギー輸送事業	267
製品輸送事業	△279
うち、コンテナ船事業	△328
関連事業	123
その他	18
調整(全社・消去)	5
合計	254

船隊構成比



At a Glance

2016年4月に「ドライバルク営業本部」と「エネルギー輸送営業本部」、2017年4月に「製品輸送営業本部」を設置したことに伴い、これまでの業績開示セグメント「不定期専用船事業」、「コンテナ船事業」、「フェリー・内航RORO船事業」を、2017年度より「ドライバルク船事業」、「エネルギー輸送事業」、「製品輸送事業」に変更しました。本項では新開示セグメントに沿った記載としています。

	事業内容	当期の概況	事業環境
ドライバルク船事業	<p>ドライバルク船 (石炭船除く)</p> <p>大量のドライカーゴ（鉄鉱石や原料炭、穀物、木材、チップ、セメント、肥料、塩など）を、汎用性に富むばら積み船や貨物特性に合わせた専用船など、世界最大規模の船隊で安定的に輸送しています。</p> 	<p>市況は回復の途上にありますが、一方でケープサイズバルカーのスポット運航船の縮小、並びに中小型バルカーに関するビジネスモデルの抜本的な見直しを根幹とする構造改革を進めた結果、前期比で損益は大幅に改善し、当期において黒字を計上しました。</p>	<p>ドライバルク船市況 (BDI*1)</p> <p>(1985年1月4日=1,000)</p>  <p>出所: Tramp Data Service等を基に商船三井作成 *1 バルチック海運指数</p>
	<p>油送船</p> <p>原油タンカー、ナフサやガソリンなど石油精製品を運ぶプロダクトタンカー、液体化学品を運ぶケミカルタンカー、液化石油ガス（LPG）タンカーなど、世界最大級の船隊でグローバルな活動を展開しています。</p> 	<p>市況エクスポージャーの縮減や長期契約の安定的な履行に注力するとともに、海外顧客向け原油船等の新規契約の獲得に取り組み、運航効率の改善やコスト削減にも継続して努めた結果、前期比で大幅な減益となったものの、当期において黒字を計上しました。</p>	
	<p>LNG船・海洋事業</p> <p>全世界で需要が増加しているLNG（液化天然ガス）を、世界最大級のLNG船隊で安全に輸送しています。また、今後成長が見込まれる海洋事業（FPSOやFSRU）にも積極的に取り組んでいます。</p> 	<p>LNG船部門は、長期契約からの安定収益を引き続き確保する中、世界初の大型エタン船を含む新規竣工船の稼働開始もあり、前期比で増益となりました。また、海洋事業部門は、新規開始の1基を含むFPSOの順調な稼働により、前期比で増益となりました。</p>	
<p>エネルギー輸送事業</p> <p>石炭船</p> <p>主に国内電力会社との中長期輸送契約を中心として、火力発電用石炭を輸送していますが、今後成長が見込まれる新興国向けの石炭輸送にも積極的に取り組んでいます。エネルギー輸送営業本部の一部門として他部門と連携し、多様化する顧客のニーズに応えています。</p> 		<p>VLCC*2市況 (アラビア湾→日本)</p> <p>(USドル/日)</p>  <p>出所: Clarksonを基に商船三井作成 *2 Very Large Crude Carrier, 30万重量トンクラスの原油タンカー</p>	
製品輸送事業	<p>自動車船</p> <p>一般乗用車から建設機械まで、あらゆる自走可能な貨物を効率良く輸送できる自動車専用船を全世界で運航。最適地生産を進める自動車メーカーのニーズに的確に対応し、安定的な輸送サービスを展開しています。</p> 	<p>米国及び欧州向けの完成車の荷動きは堅調に推移しましたが、資源価格下落等を背景に経済不振が続く資源国・新興国向けが低迷する中、減船やトレードパターンの変化に対応した運航効率の改善に取り組んだものの、前期比で大幅な減益となりました。</p>	<p>コンテナ船運賃市況 (CCFI*3)</p> <p>(1998年1月1日=1,000)</p>  <p>出所: 上海航運交易所 *3 China Containerized Freight Indexの略</p>
	<p>コンテナ船</p> <p>世界中を網羅する航路ネットワークにより、電気製品、自動車部品、衣類、家具、食品など多くの製品・雑貨をコンテナに詰めて、世界各地に届けています。自営航路のみならず、他社との共同運航により、寄港地や頻度を増やしてネットワークを拡充しています。</p> 	<p>営業力強化による消席率の改善に加え、イールドマネジメント強化による空コンテナ回送費等のコスト削減に継続的に取り組み、一定の成果は上がったものの、2016年1～3月に歴史的な低水準に沈んだ運賃市況の影響を受けた年間契約運賃の低迷等により、若干損失が拡大しました。</p>	
	<p>フェリー・内航RORO船</p> <p>旅客・乗用車・貨物車（トレーラー・トラック等）を一緒に運ぶフェリー事業、貨物車の輸送に特化した内航RORO船事業を展開しています。モーダルシフトの担い手として国内物流で存在感を増しています。</p> 	<p>トラックでの長距離輸送をフェリー輸送へ切り替えるモーダルシフトの流れがさらに加速し、荷動きは堅調に推移しました。旅客については熊本地震の影響を受けた航路も一部ありましたが、燃料油価格の低下にも支えられ、全体では前期と同水準の利益を確保しました。</p>	
<p>関連事業</p> <p>130余年にわたり海運業を中心に蓄積してきた経営ノウハウを活かし、不動産、曳船、客船（にっぽん丸）、商社事業など、多彩なビジネスを展開しています。</p> 	<p>客船事業は、にっぽん丸の好調な集客により前期比で増益となりました。不動産事業においても、堅調な賃貸オフィスマーケットに支えられ、前期比で増益となりました。その他曳船や商社等の業績も総じて堅調に推移し、全体では前期比で増益となりました。</p>		

下線の用語については、目次ページの用語集をご参照ください。